

## (2) 健康・スポーツ科学教育部会

教育部会名	健康・スポーツ科学
部会長名／作成者名	前田正登／前田正登
概 要	
<p>(1) 組織・運営について</p> <p>令和元年度の健康・スポーツ科学教育部会は、人間発達環境学研究科 17 名、海事科学研究科 1 名、保健学研究科 17 名および科学技術イノベーション研究科 1 名で合計 36 名の構成であった。本年度は昨年度に引き続き、部会長のほか幹事 2 名と技術補佐員 1 名の体制で運営にあたった。</p> <p>(2) 実施状況について</p> <p>健康・スポーツ科学教育部会としては、前期に健康・スポーツ科学実習基礎（1 単位）、後期に健康・スポーツ科学実習 1（0.5 単位）と健康・スポーツ科学実習 2（0.5 単位）の 3 つの実習科目、及び健康・スポーツ科学講義 A、健康・スポーツ科学講義 B、健康・スポーツ科学講義 C の 3 つの講義科目（いずれも 1 単位）の合計 6 科目を開設している。健康・スポーツ科学は、身体と健康・運動に関する学問を学際的な視野のもとで総合化した新しい総合人間科学であり、開設されている 7 科目の実習及び講義を通して、身体運動と人体の機能・能力との関わりについての知識、安全で効果的かつ効率のよい身体運動について、及び生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための知識と実践能力を習得することを目標にしている。</p> <p>健康・スポーツ科学実習基礎は、学部ごとに月曜から木曜日まで 11 の曜限枠を設定（一部複数学部で構成）し、1 枠あたり 3～6 クラス（コース）として、本年度は計 58 コースを前期に全 13 回の授業でセメスター科目として開講した。一方、健康・スポーツ科学実習 1 及び同実習 2 は昨年度までと同様に、後期月曜から木曜日まで 7 の曜限枠を設定し、本年度は計 22 コースを開講した。これらの実習科目では、教育効果、安全性の確保、教場の条件などから、最大限 1 クラス 40 名を目安に設定しており、前後期の 80 コースのうち、専任教員が 35 コース、非常勤講師が 45 コースを担当した。健康・スポーツ科学実習の理念・シラバス・評価等について、すべての担当教員が共通の観点を持つために、「健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き」を作成し、各教員の専門性を活かしながら効果的な実習授業を展開している。また、第 1 回目（初回）に授業ガイダンスとして、2019 年度の手引きをもとに、健康・スポーツ科学の学修目標、及び当該科目の目標、成績評価の方法などについて受講学生に周知するとともに、履修登録の手続きをガイダンスの中で行った。</p> <p>健康・スポーツ科学講義は、「健康・スポーツ科学講義 A」、「健康・スポーツ科学講義 B」及び「健康・スポーツ科学講義 C」（いずれも 1 単位）の 3 つを 1 つの時限枠に並列で開設しており、本年度は前期第 2 クォーターで 1 枠、後期第 3 クォーターで 2 枠として提供、それぞれの時限枠で学生がいずれかの科目を選択して履修希望を申請し 3 科目の履修学生数が均等になるように調整して履修登録をさせることにしている。</p> <p>健康・スポーツ科学講義の担当教員はすべて専任教員であり、「健康・スポーツ科学講義 A」では、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための知識や実践能力について、「健康・スポーツ科学講義 B」では、健康で心豊かな生活を送るためにはどうすれば良いかといった自分でできる健康管理について、「健康・スポーツ科学講義 C」では、スポーツ活動や日常の身体運動に関してスポーツ科学の中の生理学、心理学、及び社会学の各側面から、それぞれ講義を行っている。</p> <p>◎今年度の特筆すべき事項</p> <p>1) 前期セメスター科目「健康・スポーツ科学実習基礎」の実施と評価</p> <p>昨年度にカリキュラムを改定し、新設した「健康・スポーツ科学実習基礎（1 単位）」（前期セメスター科目、全 13 回）を 11 の曜限枠で計 58 コースとして実施した。受講</p>	

した学生の振り返りアンケートの結果を分析したところ、本科目に対する学生の満足度は、従来までの実習科目よりも格段に向上し、これまでに散見されていた実習科目に対しての不満意見が大幅に減少したことがわかった。2カ年度にわたって検討されてきたカリキュラムの見直しと実習授業の方法の改善を図ったことが、受講学生からの高評価に繋がったとみられる。今後さらに「必修科目に相応しい授業カリキュラム」を追求し続ける必要がある。なお、カリキュラム改定の経緯や本年度実施した「健康・スポーツ科学実習基礎」の受講学生からの評価などの詳細は、令和元年度末に発刊された「大学教育研究」第28号に「健康・スポーツ科学実習における授業カリキュラム—熱中症による事故予防と体力テストの改善を目指して—」として掲載・報告されている。

### 2) 全学共通教育ベストティーチャー賞を複数の実習担当教員が受賞

本年度前期の健康・スポーツ科学実習基礎を担当した2名の非常勤講師がベストティーチャー賞を受賞し、受賞者に続いて学生からの高い評価を受けた教員名としても専任教員3名と非常勤講師2名計5名が名を連ねた。さらに、後期の健康・スポーツ科学実習1・2についても専任教員と非常勤講師各1名が学生からの評価が高かった教員として選出された。外国語科目を除く全学共通授業科目を担当するすべての教員が対象となる中で当部会の教員が多く選出されたことは極めて名誉なことであり、これまで部会内で検討・共有してきた実習科目の運営方針の妥当性に自信を深めている。

### 3) FD研修会の実施

3月3日(火)に令和元年度神戸大学全学共通教育健康・スポーツ科学実習FD研修会兼オリエンテーションを予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために開催を中止した。FD研修会では、健康・スポーツ科学教育部会の外部評価を実施した際の委員であった柳田泰義先生をお招きし、実習科目の在り様についてのご講演をいただき参加者による意見交換を行う予定であった。部会が所管する各科目の授業について点検し必要に応じて改善を図ることは必要不可欠であり、今回開催できなかった講演会と同様の主旨の講演会を次年度以降に計画・開催したいところである。

### (3) 総括と今後の課題

本年度は、新設の実習科目「健康・スポーツ科学実習基礎」を実施した初年度であり本学独自の実習カリキュラムの真価が問われる1年でもあった。結果として、本実習カリキュラムは受講学生からの評価が従来までの実習科目よりも高く、2名のベストティーチャー賞受賞者とそれに準じる評価を得た教員が5名も選出されるに至っている。

この実習カリキュラムの改定は学生からの高い評価をもたらしただけでなく、少なからず担当教員の負担軽減にも繋がっている。元々、「健康・スポーツ科学実習基礎」は全13回のセメスター科目として、同学期のクォーター科目よりも授業回数が計3回(約19%)少なく設定されており、従来の実習科目よりも授業回数の19%程度が軽減されている。「非常勤講師の削減」が求められている中で前期の非常勤講師担当の実習科目が一律に約19%の削減できたことの意義は大きく部会運営の成果の一つとして評価できる。

それでも依然として「非常勤講師の削減」が求められ、前回の外部評価で指摘されている「体育施設の老朽化」の課題が残ったままとなっている。これら二つの課題はいずれも経費に直結する問題であり、予算が縮小傾向にある中では解決し難い課題となっていることも事実である。これらに関しては、今のところ、学生の評価も際立って低いことはなく教育の質の低下も認められてはいないが、二つの課題は「健康・スポーツ科学」の評価に影響する可能性がある重要な課題であり、「健康・スポーツ科学は、授業の範囲を超えて、快適な学生生活を支える重要な役割を担うことが期待できる領域である」との理念の下、今後できる限り早急に対応すべき課題であると考えられる。

## **A 組織構成と運営体制について**

①基本的な組織構成が適切であり、実施体制・運営体制が適切に整備され、機能しているか

本年度の健康・スポーツ科学教育部会は、部会長の他、2名の幹事及び支援室職員の技術補佐員の体制で運営にあたった。教育部会会議（5月、1月）のほか、実習担当者会議（11月）及び幹事会（4月、5月、10月）を行って教育部会の円滑な運営に努めた。

根拠資料

- ・教育部会構成員名簿，令和元年度部会会議記録，実習担当者会議記録

## **B 内部質保証について**

①学生を含む関係者等からの意見を体系的、継続的に収集、分析し、その意見を反映した取組を組織的に行っているか

実習コースは学生の選好に応じて選択できるようになっており、各コースの履修者数は学期ごとに集計し、振り返りアンケートの結果とともに学生のニーズを分析して次年度の時間割作成時に反映している。講義についても履修者数を把握し、授業内容に反映している。

根拠資料

- ・振り返りアンケートの結果
- ・平成30年度及び令和元年度の健康・スポーツ科学実習及び同講義履修者数

②自己点検・評価によって確認された問題点を改善するための対応措置を講じ、計画された取組が成果をあげている、又は計画された取組の進捗が確認されている、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されているか

本年度より前期の実習基礎を全13回の Semester 科目に変更した。例年の7-8月の暑熱環境下での実習授業を回避するために、後半の実習を講義に振り替えて授業回数を削減し7月中旬までに全授業を終えるスケジュールへの変更であった。本年度前期の受講学生の振り返りアンケートの結果から、この変更が極めて有効であったことが窺えた。

根拠資料

- ・健康・スポーツ科学実習における授業カリキュラム—熱中症による事故予防と体力テストの改善を目指して—，大学教育研究 第28号，pp. 101-116，2020.
- ・2019年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き

③授業の内容及び方法の改善を図るためのFDを組織的に実施しているか

昨年度2月に実施したFD講演会を本年度は3月に予定していたが、新型コロナウイルスによる感染拡大防止の観点から開催を中止した。当該講演会では前回の外部評価委員であった柳田泰義先生をお招きし、実習科目の在り様についてのご講演をいただき参加者による意見交換を行う予定であった。用意していた資料等を実習担当教員に送付し、各自それらを熟読の上、実習科目についてより一層理解を深めることとした。

根拠資料

- ・令和元年度健康・スポーツ科学実習FD研修会兼オリエンテーションの案内
- ・2019年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き

- ④教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者が配置され、適切に活用されるとともに、それらの者が担当する業務に応じて、研修の実施など必要な質の維持、向上を図る取組を組織的に実施しているか

健康・スポーツ科学では教養教育支援室職員として技術補佐員を置いており、実習授業が円滑に行えるように補助業務を行っている。また、一部の授業に限定されるものの、ティーチングアシスタントを配置して授業をサポートしている。なお、ティーチングアシスタントは採用時に業務内容について担当教員と詳細な打ち合わせを行っている。

根拠資料

- ・2019年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き
- ・「TA制度の実施に関するガイドライン」及び「TA実施要領」

## C 教育課程と学習成果について

- ①当該教育部会が提供する授業の目標が、全学共通授業科目の区分ごとの学修目標に対応したものとなっているか

健康・スポーツ科学の学修目標は、身体運動と人体の機能・能力との関わりについての知識、安全で効果的かつ効率のよい身体運動について、及び生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための知識と実践能力を修得することであり、提供している講義3科目及び実習3科目（2017年度、2018年度生対象は4科目）の目標はいずれもこれに対応したものとなっている。

根拠資料

- ・2019年度各授業シラバス
- ・2019年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き

- ②授業担当者に共通目標や学部からの要請を示し、到達目標をそれに沿ったものにする配慮がなされているか

前期実習科目はシラバスを共通化しており、到達目標を含め内容は健康・スポーツ科学の学修目標を踏まえたものとなっている。また、講義科目や後期の実習科目についても担当教員に健康・スポーツ科学の学修目標を踏まえるよう要請しそれらに沿ったものとなっている。

根拠資料

- ・2019年度各授業シラバス
- ・2019年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き

- ③授業科目の内容が、共通目標や個々の到達目標を達成するものとなっているか

前期実習科目はシラバスを共通化しており、到達目標を含め内容は健康・スポーツ科学の学修目標を踏まえたものとなっている。また、講義科目や後期の実習科目についても健康・スポーツ科学が掲げる学修目標に沿ったものとなっており、いずれの科目においても到達目標を達成するものとなっている。

根拠資料

- ・2019年度各授業シラバス
- ・2019年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き

- ④単位の実質化への配慮がなされているか

実習の授業では授業開始時に出席を厳格にとり、遅刻や早退についても教育部会独自の基準で学生に対応し、厳正な評価を行っている。また、「評価の対象」や「評価の基準」を初回ガイダンス時に学生に説明し周知している。

根拠資料

- ・2019年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き
- ・履修カード

⑤教育の目標に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組み合わせ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学修指導法の工夫がなされているか

健康・スポーツ科学実習基礎においては、実習ノートに基づき、運動時のエネルギー消費や運動の生理的負担等を実測させている。また、各スポーツ種目を教材とした実習では、グループに分けての指導を実施し、その場合はTAを活用して指導が充実するよう配慮している。さらに、実習・講義ともビデオ・DVD等を活用して、学生の理解が深まるよう工夫している。健康・スポーツ科学講義ではオムニバス形式により各講義回の内容を専門としている教員が講義を行うようにしている。

根拠資料

- ・健康・スポーツ科学実習ノート
- ・2019年度各授業シラバス

⑥シラバスに、必須項目として「授業名、担当教員名、授業のテーマ、授業の到達目標、授業形態、授業の概要と計画、成績評価方法、成績評価基準、履修上の注意（関連科目情報）、事前・事後学修」及び「教科書又は参考文献」が記載されており、学生が書く授業科目の準備学修等を進めるための基本となるものとして、全項目について記入されているか

健康・スポーツ科学実習基礎及び健康・スポーツ科学講義は、それぞれ複数の曜限で開設されており、同一科目名の科目については、授業内容の共通化を図るためシラバスを共通としている。なお、実習基礎のシラバスは、学修目標はもちろん内容も共通化を図るとともに、実態に即して各スポーツ種目に応じた内容も盛り込めるように一部はコースごとに可変としている。

根拠資料

- ・令和元年度各授業シラバス
- ・2019年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き

⑦学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われているか

実習授業は曜限ごとにコース（スポーツ種目）が選択できるようになっており、各コースの内容は初回のガイダンスにて各担当教員より説明し、学生はそれら情報を元にコースを選択して履修手続きを行うこととしている。

根拠資料

- ・2019年度各授業シラバス
- ・2019年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き

⑧学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われているか

実習授業では曜限ごとにコース（スポーツ種目）が選択できるようになっているが、提供するスポーツ種目は年度ごとに検討することとしており、前年度の学生の履修状況を勘案しながら時間割を作成する際に反映するようにしている。また、実習授業では身体運動を伴うことから、身体運動を行う際に支援が必要となる学生が履修していた場合は、当該授業にTAを優先的に配置するようにしている。

根拠資料

- ・2018年度履修学生数一覧
- ・2019年度履修学生数一覧
- ・2019年度健康・スポーツ科学実習時間割

⑨成績評価基準及び成績評価方針に従って、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されているか

健康・スポーツ科学実習の受講学生には、毎期の初回授業で行われるガイダンスで評価観点等について説明し周知している。また、同講義においてもシラバス記載の基準をガイダンスで説明し、その上で授業を進めている。

健康・スポーツ科学実習では、成績評価について①評価基準、②評価の対象、及び③評

価の観点として、それぞれガイドラインを設けており、科目ごとの成績分布を含めて、前年度末に実施される次年度の健康・スポーツ科学実習オリエンテーションにて授業担当者で確認共有している。なお、成績分布が適正ではなかった科目については、部会長が科目担当者に対して改善を求めることとしている。

根拠資料

- ・ 2019 年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き
- ・ 履修カード（学生の写真付）

⑩学修目標に従って、適切な学修成果が得られているか

健康・スポーツ科学実習に対する学生の授業評価は良好である。一方、健康・スポーツ科学講義についても良好であり、概ね適切な学修成果が得られていると判断される。ただ、実習基礎のカリキュラム改定が高評価であったことを踏まえると、学生からの評価をどのようにして各教員の授業に反映させていくか、その仕組みを再検討する必要があると考える。

根拠資料

- ・ 2019 年度 学生の振り返りアンケート
- ・ 令和元年度 各教員の自己点検・評価